追悼の詞（安達漢城）

人生は　夢の　如く　亦　爛の　如し
君　逝いて　茫々　転た　暗然
髣髴たる　温容　呼べども　答えず
大空　漠々　恨み　綿々

人生如夢亦如烟　君逝茫茫轉暗然
髣髴温容呼不答　大空漠漠恨綿綿

解説　生前とりわけ親しかった知己を失ったとき、その追悼の詞として作ったもの。

語釈　※如夢＝夢のように儚い。※逝＝逝去。※茫茫＝遠く広いさま。※転＝ますます。※暗然＝暗い様子。※髣髴＝思い浮かぶさま。※温容＝生前の穏やかな顔だち。※漠漠＝広々としたさま。※大空＝漢語では虚空。※綿綿＝長く続いて絶えぬさま

通釈　人生とは夢のように、又、煙のように儚いものである。君がこの世を去ってしまって、自分はただ茫然として、目の前がまっ暗になった。君のことを思うと、あの穏やかな顔が浮かんでくるが、いくら呼びかけてみたところで答えてはくれない。虚空は果てしなく広がり、恨みは果てしなく何時までも残る事であろう。